

# 国際化推進室ニューズレター No10

## ◆ 留学生を県内15ヶ所の小中学校に派遣

日ごろ留学生に出会う機会の少ない県内の学校に留学生を派遣する「国際理解講座」を実施し、地域共生センターを通して希望する学校を募集しました。派遣期間は2008年10月から2009年2月まで。一学年10名程度の小さな学校では、特に全校あげての大歓迎を受けました。派遣した学校は岩国（川上小学校）、柳井（柳井西中学校）、周南（富田東小学校）、防府（華城小学校）、山口（大内南小学校、湯田小学校、名田島小学校、大殿小学校、宮野小学校：2回、良城小学校）、宇部（万倉小学校、厚東小学校）、美祢（大嶺小学校）、萩（明木小学校）。

協力してくれた留学生は国際文化学部や国際文化学研究所所属の長期留学生や、一年以内の短期留学生（交換留学生）です。自分の国や出身地域の文化を紹介するパワーポイントを準備し、小中学生にわかりやすい言葉で説明をし、クイズを出してくれました。小学校でも日本の遊びやゲームを用意しており、子どもたちや教員、保護者との身近な交流を通して、山口県立大学の留学生の存在をアピールしてくれました。

詳細はホームページに掲載しています。

## ◆ 2008年度後期に帰国する留学生

留学生からのメッセージをホームページで紹介しています。

<本学からの派遣者>

韓国・慶南大学校より帰国

阿波野 優美、小野 華奈

<本学の受け入れ学生>

韓国・慶南大学校へ帰国

姜 炫旭、宋 恩珍

中国・曲阜師範大学へ帰国

孫 作文

カナダ・ビショップス大学へ帰国

Bridget McKenzie

中国・青島大学へ帰国

刘 臙脂（大学院）

<本学を卒業する長期留学生>

学部：孫娜、李波妮、ビョン忍愛

大学院：李彦及

## ◆ 国際共同研究の成果

### (1) 健康福祉学研究科（ハワイ・韓国との国際共同研究）

大学院健康福祉学研究科長 長坂祐二

平成21年1月31日、「百寿者から学ぶ：生涯現役社会づくりにむけて」と題して、日韓ハワイ国際共同研究フォーラムを、小川全夫教授を大会長として開催しました。このフォーラムは、昨年、韓国とハワイに訪問して、百歳以上老人に関する共同研究の提案を行ったことを受けて、企画されたものです。韓国からは慶北大学校保健大学院教授李誠國教授をはじめ、6人の大学院生も含めて16人の方が、ハワイからは Kathryn Braun 教授をはじめ4人の方が、その他モンゴルから1人、中国から1人の方が来日されました。フォーラムの午前中は、小川全夫教授による基調講演「アクティブ・エイジング：人生百歳時代の健康福祉学」、坂東大介 NHK ディレクターによる記念講演「NHK 百歳万歳！の取材からみえてきたこと」があり、午後からは「百歳高齢者研究の現在」と題して、5人の講演者による日韓ハワイ・シンポジウムを開催しました。また、昼休みにはポスター・セッションが行われ、本学からは7人の大学院生がプレゼンテーションを行いました。翌日2月1日には関係者によるセミナーを開催し、今後の共同研究の進め方について具体的な協議を行いました。





## (2) 国際文化学部文化創造学科(青島大学との国際共同研究)

### 青島大学紡績服装学院からの訪問団を迎えて —共同研究についてのミーティング実施とクリスマスファッションショーへの招待—

国際文化学部文化創造学科教授 水谷由美子

山口県立大学海外学術提携校の一つである中国青島大学紡績服装学院から、2008年12月19日から22日までの4日間、教員2名と学部学生2名の訪問団を国際文化学部にてお迎えした。今回の目的は今後の共同研究についての協議をすることと、学生をクリスマスファッションショーに招待し、作品を出典してもらうことであつた。

まず、共同研究に関しては紡績服装学院副院長の馬建伟氏および服装芸術デザイン学部副主任の秦徳清女史と、本学の松尾量子准教授と筆者が参加して協議を行った。そこでは今後、学生交流の他に教員の間でも教育に関する共同研究をして行くことの合意を得た。方法としては学生のファッションショー参加を通じた交流を継続していくことと同時に、まずは教員が講演会を実施することから始めようということになった。互いの研究内容を理解しながら、共同研究のテーマを探るという方向になる。

さらに、最近、青島大学ではイギリスやドイツの大学との交流が盛んになって来ており、そこでは一年生を青島大学で、そして二年から四年までを現地大学で学習し、在籍大学と同時に留学先の大学からも卒業証書をもたらうというダブルディグリー制度を実施しており、我々の大学でもそのようなことが可能かという質問が印象的であつた。これは、今後当大学で議論して頂きたい内容であるので、その旨を報告したい。

服装デザイン専攻学生の徐珊さんと王钰さんは、12月19日に山口県立美術館で行われたクリスマスファッションショーでそれぞれの作品4点づつを発表した。彼女たちの瑞々しい作品は、多くの観客による賞賛の拍手を得た。

本学の水谷研究室学生が同年6月に青島大学主催のファッションショーに参加しており、これで双方向のファッションデザイン交流が実現したことになる。学生たちには国際的な発表の機会を相互に与えることで教育効果が上がっている。

文化創造学科という新しい学科の将来もみすえた教員の共同研究を開始するとともに、学生の交流も継続していきたいと考えている。国際文化学部全体でも、服飾文化を支える社会学的視点、歴史的視点、さらに異文化交流などの分野からのアプローチを加えて、体系的に青島大学との共同研究を企画して行く可能性も模索されたい。



## ◆ 留学からのメッセージ

ホームページに掲載している留学生のメッセージの一部を紹介します。

### 「最高のプレゼント」

宋 恩珍（交換留学生・慶南大学校）

昨年の4月から始まった山口での留学生活はいつのまにか一年が経ち、最後の月を迎えました。

高校生の時に初めて習った日本語が面白くて、慶南大学校に入ってからずっと日本語の勉強をしました。山口県立大学の交換留学生として山口に行ける幸運を受け、「もっと日本語を習える」という考えでとても嬉しかったです。日本に来る前には心配より一年間の留学生活について楽しみにしていましたが、実際に来てみると、自分の下手な日本語を感じて、毎日ストレスのあることはもちろん、留学を放棄したくなる気持ちになりました。話すことも、聞くことも、書くこともあまり出来なかったのです。どこに行っても日本語を使っている生活が難しかったです。授業はもちろん、発表も、レポートも山口県立大学生と同じものが求められたので難しく、大変で、すぐ疲れました。そのたびに『韓国社会論』の先生や友達は私の大きな力となり、おかげで日本語にも日本での生活にも段々慣れるようになりました。

日本語の勉強を無理やりしなくても、授業が全部日本語であったので、予習と復習を通して自然に勉強になり、山口県立大学の先生と学生を見ながら習ったり、感じたりしたので、日本語の向上だけではなく、自分の成長ができた時間でもあります。そして日本人学生や留学生たちとの交流も大事なことだと考えていたので、勉強すること以上に一所懸命遊びました。それで、話すことが上手になったと考えています。

山口県立大学では、韓国だけではなく、中国、カナダ、フィンランド、アメリカの学生がいます。国籍がそれぞれ違う留学生との交流は新しい経験であり、彼らが持っている様々な経験と考えを聞くことを通して自分に大きな刺激になり、チャンスにもなりました。顔や住んでいるところは違うが、『日本語』という共通の言語の中でたくさんの思い出ができました。

留学の目的であった日本語の向上とともに、自分の成長が感じられたということは、とても良かったと思います。しかし、それ以上に、山口で出会った友達と作ってきた思い出や経験が、このような留学の目的の達成よりも値打ちのあるプレゼントとなりました。

一年間見て、聞いて、習えたこと、そして値打ち

のあるプレゼントまでしてくれた山口での時間を忘れることはできません。皆さん、ありがとうございました。



### 「留学生の心構え」

姜 炫旭（交換留学生・慶南大学校）

日本に来て一年が過ぎた。最初は何も分からなくて、慌てて、なかなか慣れることができなかった。

私は一年間、「山ほどのたくさんの経験をした」。下手な日本語で一人で旅行したり、通訳したりして、自信感というものを身につけた。また、人とのたくさんの出会いを通じて、自分の「人材財産」増やすこともできた。私は、このような成果が、決して留

学したから当然得られたものとは思わない。それは私なりに立てた原則に即して、行動したからだと思う。そこで、その原則について話したい。

留学という特別な経験の中で、自分なりの原則を立てて生活することは本当に重要だと思う。その中で、私が一番大切に思うのが「やる気」だ。このような心構えがないと、いくら頑張っても無駄になると思う。例えば、何かをするためには「恥ずかしさ」とか「恐れ」があるのは当然なことだ。それを乗り越えないと前に進めない。これを乗り越えるために、私は次のように考えた。「私は留学生だ。日本語が下手なのは当たり前ではないか。だから大丈夫。」こう思って、自分自身を励ますようにした。

二番目は、「自分に与えられたチャンスを自ら取る事だ」。山口は、東京や大阪に比べて留学生が少ないことは現実だ。だからこそ、自分に与えられるチャンスが多い。これをいかすために、私は積極的な姿勢に臨んだ。その結果、私はたくさんの大学生や社会人と友達になれた。

三番目は、「出会った人々との関係を大切にすること」だ。もちろんこれは、私が韓国に帰ることと同時に終わるのではない。人とのつながりは、一生にかけて大事にしなければならないものである。

最後に、「家は寝るぐらいの場所だと思えばいい」。なるべく外で動きながら、生活することだ。例えば、人々と交流するとか、旅行をすることだ。日本にいること自体が勉強だと思えば大丈夫。このように考えた理由は、「一年もの間日本にいるのに、机に座って勉強ばかりしているのではもったいないし、そのような勉強なら韓国でもできる」と考えたからだ。せっかく外国にきたのなら、直接肌に接しながら感じるのが大切ではないかと思う。もちろん、決して学校での勉強をしなくてもいいという意味ではないが。

これらが、私が立てた原則だ。もちろん人によって個人的な差はあるが、基本的に「前向き」「積極的な心構え」を基本に、留学生生活を過ごすべきだと思う。

### 「山口に来てみて」

Elliott Verreault (交換留学生・ビショップス大学)

交流留学の事を初めて聞いた時、色々な事を考えました。まずは、「どこがいいかな」と思いました。ビショップス大学の日本語の先生から「日本に行けるよ」と聞いた時に、「えっ ジャパン？」と返事しました。とても遠いし、文化も全然違うしと思いましたが、でも、小さい時から日本の事は面白そうと思っていましたし、興味がありました。だから、すぐ決めました。日本に行くこと決めたからには、心残り

のない留学生活を送ろうと決めました。

ビショップス大学からは日本の色々な大学に交流留学ができ、大学を選ぶ事が出来ました。その大学のリストの中には、とても有名な大学がありました。東京の早稲田大学も慶応大学も入っていたのですが、私は山口県立大学を選びました。なぜかと言ったら、答えは簡単です。田舎なので、外国人が少ないし、山口ではあまり英語を使えないし・・・。「日本語を本当に習いたかったら、地方が最高ですよ！」

次に、どこに住もうかと考えました。山口県立大学では、ホストファミリーかアパートかを選ぶことができました。私はホストファミリーと住みたかったです。これは実際にとっても良い経験となりました。日本に家族がいるという感じがしています。ホストファミリーに出会えてすごくよかったです。大好きです。帰国してもまた会いたいです。日本のママとパパ！

山口県立大学はいい所です。もし、日本語を習いたかったら、ここは最高ですよ！大学は小さいので、すぐに友だちをつくることができます。本当にみんな優しい。ほかの人にも山口県立大学に留学することをお勧めします。



◆今回ホストファミリーをお引受いただいた衛藤様、田島様、泉様、石本様、金丸様、赤羽様、森中様、原野様、河合様大変ありがとうございました。

### ◆ 国際化加速 GP フォーラムの開催

平成 20 年度大学教育の国際化加速プログラム (海外先進教育研究実践支援：教育実施型) の総括として、2009 年 3 月 25 日 (水) 9:30-15:30、看護学部棟会議室にてフォーラムを開催します。

山口県立大学国際化推進室

Tel(内線):083-928-3413 (3413)

email:kokusaika@yamaguchi-pu.ac.jp